

第5回 境川かわまちづくり懇談会議事録（概要）

1 開催日時 令和4年9月20日（火） 15時00分～17時20分

2 開催場所 浦安市役所4階 S2・S3・S4会議室

3 出席者

（学識者）2名

法政大学 陣内 秀信 特任教授

早稲田大学 創造理工学部 社会環境工学科 佐々木 葉 教授

（沿川自治会）代表者7名

猫実四丁目自治会、堀江三丁目自治会、堀江四丁目自治会、第8区自治会

猫実東自治会、潮音の街自治会、タイムレスタウン新浦安自治会

（関係団体）代表者8名

境川であそぼう実行委員会、浦安水辺の会、浦安市カヌー協会、ふるさと浦安かっぱ村

うらやす景観まちづくりフォーラム、みどりのネットワーク

一般社団法人浦安観光コンベンション協会、浦安商工会議所

（河川管理者）2名

千葉県葛南土木事務所 調整課 永井主査

浅見技師

（事務局）9名

道路整備課 須賀課長、小泉課長補佐、千葉河川海岸係長、田中工務係長

竹内主任主事、岩楯主任主事、広瀬主任主事

商工観光課 米川主任主事

郷土博物館 島村副主幹

（事務局補助）4名

公益財団法人リバーフロント研究所 土屋、八町、風間、利満

#### 4 議 題

- (1) 前回の振り返り
- (2) プレ（仮称）勉強会の開催状況
- (3) （仮称）勉強会について
- (4) 質疑応答・全体討議
- (5) 意見交換 テーマ1 「（仮称）勉強会のあり方と名称」について
- (6) 意見交換 テーマ2 「テーマ毎のメンバー」について
- (7) 新川の現地紹介
- (8) その他

#### 5 会議経過

- (1) 前回の振り返り

前回の振り返りとして、第4回懇談会の状況、キーワードのとりまとめ、（仮称）勉強会のテーマについて説明を行った。

- (2) プレ（仮称）勉強会の開催状況

プレ（仮称）勉強会の開催状況、アンケート結果について説明を行った。

- (3) （仮称）勉強会について

（仮称）勉強会のテーマ（案）〔「水辺・水面の利用」「水・自然環境」「歴史・文化」の3テーマ〕、（仮称）勉強会の概要（案）、懇談会との関係、次回懇談会の意見交換（案）の説明を行った。

#### (4) 質疑応答・全体討議

##### 質疑応答

Q. 以前、本懇談会でかわまちづくりの事例に関する資料をいただいたが、活動内容が多岐に渡る。最終目的としては、どのようなものを目指すのか。事例で示された活動を行っていくのか、本日説明いただいた「(仮称)勉強会」を実施していくのかわからない。
A. 事例は参考として示したものである。市としては、境川を市民などに活用されるものとするため、懇談会や(仮称)勉強会を開催しながら、市民要望や団体の活動・利活用の方向性を取り入れたかわまちづくり計画を策定し、にぎわいの創出、魅力向上、ソフト・ハード一体となった利活用と修景整備などを進めていきたいと考えている。
Q. かわまちづくりは、具体事例があってそれが登録されるのではなく、計画自体が登録されてそこから次に進めるということか。
A. そのとおりである。
Q. かわまちづくり計画を登録する主体はどこか。
A. 国土交通省である。
Q. かわまちづくり計画の登録のための基準は示されているのか。
A. 登録要件として「推進主体の熱意が高い」ことなどが示されているが、計画の作りこみは事例により様々である。
Q. かわまちづくり計画が登録されると予算がつくことになるのか。
A. かわまちづくり計画が登録されることによる具体的な補助金等はない。
Q. 国土交通省からの予算は期待できないとしても、登録されることで浦安市としては具体的な予算化に入ることはできるのか。
A. 事業や取り組みを計画に位置付けることとなるため、積極的に財政資源を投入するひとつの要素にはなり得ると考える。

##### 全体討議

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 懇談会は、女性の参加が少ない。女性を多くするのは(仮称)勉強会がよいと思う。リアルな会議とオンラインを併用で、夕飯が終わる頃の夜8時くらいから開催するのはどうか。</li><li>・ かわまちづくりに興味がある人はいるが、懇談会には関係団体から一名しか参加できない。また、学生やサラリーマンは、ウィークデーはなかなか参加できない。なるべく多くの方にこの活動を広げ、それが協議会という形に出来上がっていくのが本来の姿ではないか。</li><li>・ 境川かわまちづくりでは何をを目指すのか、方向性をもう少し明確にして、例えばホームページで発信していただくと若い方もついていけるのではないか。</li></ul>

(5) 意見交換 テーマ1 「(仮称)勉強会のあり方と名称」について

3グループに分かれて(仮称)勉強会のあり方と名称について議論を行い、各グループの代表が発表を行った。名称については、下記の案から「境川かわまちを進める会」を候補とした。

グループ1

名称	特にこだわりはない
あり方	<ul style="list-style-type: none"><li>・参加者が同じ情報、知識を共有できるようにまずは勉強会形式で行い、その後にワークショップなどを開催したほうがよいのではないか。</li><li>・運営していく上では議論のテーマは決めておいた方がよい。</li><li>・スケジュール、作業目標などもあらかじめ決めておいた方がよい。</li><li>・かわまちづくり懇談会、(仮称)勉強会も含め、参加者の活動内容を何かの機会に市民に周知したほうがよい。</li><li>・ホームページだけではなく、広報などで発表するような機会があればよい。そうすることによって、参加していない方から意見をいただけるのではないか。</li></ul>

グループ2

名称	境川かわまちをつくる市民の会
あり方	<ul style="list-style-type: none"><li>・意見交換の人数は、少人数とし、言いたいことが言えるようにするのがよい。</li><li>・ヒアリングする人(聞き役)が一人いるとよい。聞かれることによっていろいろなことを引き出せる。</li><li>・白地図を一人一人が持ち、場所毎にやりたい事を書き出し、まとめて大きなものにしていけば、全体像を作っていけると思う。</li><li>・勉強会の人数をもっと広げてワークショップを行うなど、いろいろなことで人を増やしていくとも大事だと思う。</li></ul>

グループ3

名称	境川かわまちづくり推進検討会
あり方	<ul style="list-style-type: none"><li>・もう少し広い年齢層に参加してもらわないとならない。</li><li>・そのやり方をどうするかは、スケジュール感とマッチさせて具体的に決めていかなければならない。</li></ul>

学識者より講評

- ・名称については、グループ2、グループ3の案を踏まえ、「境川かわまちを進める会」としてはどうか。
- ・グループ2の意見で出た聞き役は良いと思う。聞き役がいることで、情報が新鮮な角度から次々入ってくる。
- ・名称も重要であるが、広報活動も非常に重要であり、情報をうまく伝えていく人材と工夫が必要である。

(6) 意見交換 テーマ2「テーマ毎のメンバー」について

(仮称)勉強会のスタートに向け、懇談会参加者によりテーマ毎のコアメンバーを決めるため、第4回懇談会の結果を踏まえて設定した(仮称)勉強会のテーマ案の中から参加するテーマを選択していただくことを予定していたが、下記のとおりテーマ設定や現時点で懇談会参加者をテーマ毎に分けることの是非などについて多くの意見が出た。

このため、第5回懇談会では、テーマ毎のメンバーは決めず、今回の議論を踏まえ、(仮称)勉強会の運営やかわまちづくり計画登録までのスケジュールなどについて事務局で検討したうえで、第6回懇談会の議題を設定することとした。

質疑応答

Q. 懇談会には、各団体から1名ずつしか参加していない。まずは、参加者の範囲を広げ、議論を深めていく必要があり、テーマごとに議論する段階には至っていないのではないか。この段階で、予め行政に決められた3つのテーマに参加者を分けるのは反対である。
A. 市から示した3つのテーマは、第4回懇談会で参加者からいただいた意見を踏まえて設定した事務局案であり、確定ではない。 このテーマについても、参加者とともに決めていきたいと考えているが、まずは、懇談会参加者で、テーマごとにより深い議論をしていく「(仮称)勉強会」を行い、次のステップに動き出していきたい。 まずは、懇談会参加者がコアとなり、今後どのような人をどのように増やしていくかなど、(仮称)勉強会の運営方法も含めて考えるという趣旨で提案している。
Q. 3つのテーマに分けてより具体的な話をしておくことと、若年層など、新たな参加者を増やしていけるスキーム作り、どちらを先に行っていくのか。
A. まずは、懇談会参加者で小規模で集まり、議論を深化させながら、新たな参加者を増やしていきたいと考えている。
Q. より深い議論は具体的になる。例えばカヌー、喫茶店、そのような具体論に踏み込んでほしいということか。
A. そのとおりである。
Q. 3つテーマに分けて進めると、それぞれのやり方で進んでいくことになると思うがそれでよいのか。
A. 懇談会や協議会において各テーマの議論を取りまとめ、テーマ毎の連携についても議論し、違う方向に行くことが無いように考えている。
Q. かわまちづくり計画の登録スケジュールはどうなっているのか。
A. 11月に国土交通省のヒアリング、翌4月～6月が計画募集、8月に登録というスケジュールである。スケジュール感も含めて皆さんと議論していきたいと考えている。 なお、計画登録後、活動をしながら計画を変更していくことも可能である。
Q. かわまちづくり計画について、どの程度までできていれば登録されるのか。ハードルの高さがわからないと、どのようなスケジュール感で進めていくかイメージがつかめない。
A. 境川では既に多くの活動が行われているため、既存の活動を将来計画に位置付けることで計画登録のための申請書は作成できる。 計画の登録を先行し、その後、協議会により熟度を上げていくという手法もあり得る。

## 全体討議

### 主な意見

- ・ このまま懇談会で議論を進めても行き詰ってしまう。仮設定したテーマで、まずは（仮称）勉強会として動き出すことが重要である。1人の参加者が複数のテーマに参加しても良いとのことなので、クロスオーバーしながら議論を進めていき、議論の熟度が高まってきた段階で新たな参加者を集めていくような形が良いのではないかと。
- ・ 熟度が高まった段階で新たな参加者を呼びかけるという話があったが、それまでには時間を要するため、（仮称）勉強会は、最初から協議会参加者に少ない女性や若年層など、新たな参加者に入ってもらい、アイデアをダイナミックに取り入れていくオープンな運営とした方が良いのではないかと。
- ・ 参加者をテーマ毎に分けると専門的な話になってしまい、全体としての共通理解は得られないので現段階ではまだ早いのではないかと。
- ・ 参加者をテーマ毎に分ける前に参加者を増やしていくことで、議論を深めることができる一方、人数が増えると日程調整が困難になるなど、機動力に課題が残る。参加者をテーマ毎に分けたうえで動き出す進め方も、一長一短があり、どのような進め方が適しているかは、計画登録までのスケジュールによって決まってくるため、市が引き取り決めていただきたい。
- ・ 計画登録までのスケジュールについて、11月に国土交通省のヒアリングはあるが、ここで示す内容を翌4月～6月までに変更することもできるため、来年8月の計画登録を目指すべきではないかと。
- ・ 11月に国土交通省のヒアリングで示す原案を懇談会でも示していただきたい。修景整備の計画図などを基に、どう活用するかを議論することはできるが、そのような資料が懇談会で出てきていないため、議論すべき内容が不明確である。
- ・ 当面の目標は、かわまちづくり計画の登録であると考え。まずは、登録されるための計画書づくりを進め、登録後、活動しながら改善していけば良いのではないかと。
- ・ 懇談会での意見交換について、自由闊達に意見を言うだけでは熟度は上がっていかないので、各テーブルにテーブルファシリテーターを設け、参加者が平等に意見を言えるよう、運営する必要がある。
- ・ 境川を西水門から河口まで見て現状認識・問題点を抽出したほうがよい。
- ・ 市みどり公園課で境川河口部の旧観光漁業基地用地の基本計画を検討していると思うが、同用地の整備が境川全体の計画にも大きく影響するため、これら他の計画との連携を十分に考慮する必要がある。

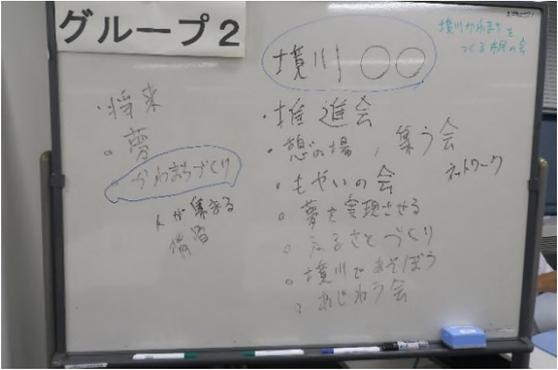
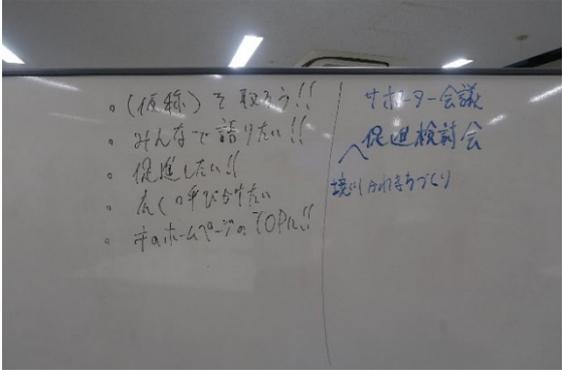
### (7) 新川の現地紹介

開催時間の都合で省略した。

### (8) その他

- ・ 第6回懇談会の日程は、11月の開催を予定している。
- ・ 議題については今回の内容を踏まえて検討する。
- ・ 対面で開催を予定しているが、新型コロナウイルスの関係等によりオンライン開催になることも考えられるので合わせて検討する。

開催状況写真

	
<p>意見交換（グループ1）</p>	<p>意見交換（グループ2）</p>
	
<p>意見交換（グループ3）</p>	<p>意見交換ホワイトボード（グループ1）</p>
	
<p>意見交換ホワイトボード（グループ2）</p>	<p>意見交換ホワイトボード（グループ3）</p>